

平成 29 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 教育学部

フリガナ イバシ ナコ
氏名 石橋 尚子

研究期間 平成 29 年度

研究課題名 「戸外アートコーナー」を中心とした子ども主導の制作活動の展開

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	石橋尚子	教育	教授
研究分担者	小林豊子	附属保育園	園長
研究分担者	飯田 恵	附属幼稚園	教頭
研究分担者	山田祥世	附属幼稚園	教諭
研究分担者	中村規代	附属幼稚園	教諭

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

平成 27 年 10 月より「戸外アートコーナー」を設置し、試験的な実践を蓄積してきた。実践を通して、描きたいものを描きたい時にいつでも描くことができるような場が、子どもの制作意欲を育てることがわかってきた。そこで本年(平成 29 年度)は、「戸外アートコーナー」の設置を年間保育計画に明記し、保育園とも連携して取り組む体制をとり、その有効な設置方法や運営方法、子ども主導の制作活動を促す指導方法について検討したい。

具体的には、自由保育の中で制作表現活動を積極的に取り入れている国内の保育園・幼稚園に取材し、その保育内容・実践方法などについて資料を収集したい。また、「戸外アートコーナー」参加中の子どもの素材選定の様子や言葉、制作過程を丁寧に記録・データ化し、その有効性を検証したい。それらを踏まえ、今後の子ども主導の制作活動への視座を得たいと考える。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

下記 4 つの調査・分析を踏まえ、「戸外アートコーナー」の成果と改善点を明らかにした。またその結果をもとに、次年度の「戸外アートコーナー」活用制作活動カリキュラムを作成する。

- ① 子どもの表現意欲を促す素材・材料についての情報収集。
- ② 自由保育の中で制作表現活動を積極的に取り入れているすみれ保育園(長崎県佐世保市)への訪問と資料収集。実施期間：平成 29 年 11 月 30 日～平成 29 年 12 月 1 日
- ③ 「戸外アートコーナー」設置前・設置中・設置後の子どもの制作活動を、購入カメラとビデオ機器を併用して詳細に記録し、データ化した。
- ④ 「戸外アートコーナー」での教師の言葉がけ等を吟味し、効果的な制作活動指導方法について検討した。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

●子どもの表現活動における変化～年長児を中心に～

1学期は、紙と絵具をさくらの木の下に準備し、まず表現したいときに表現できるような環境を準備した。しかしながら、前年度、絵具に触れる機会が少なかったため、体や手の平に塗るといった感覚的な遊びとして楽しむに留まっていた。そこで2学期以降は、「表現活動を楽しむ時間の十分な保障」の方針は堅持しつつ、①アラカシとコナラの木の下で、落ちてきたどんぐりや松ぼっくりを利用して木工制作が自由にできるようにする。②芋掘り体験の直後にロール紙を園庭に置き、絵具で自由に描くことができるような機会を設ける。③イチョウの木の下で落ち葉プールを楽しめるようにし、そこでも制作ができるようにする。といった活動に広がりを持たせた。その結果、子ども達はゆったりと対象と向き合い、感じ取った思いをその場で、そのままに表現できる喜びを味わうことができたことが、作品とデータから読み取れた。

●教職員の働きかけの変化

1学期は、教職員も「戸外アートコーナー」に馴染みが少なく、経験不足もあって終始片付けや準備に追われ、翌日の環境構成の改善策を探ることが精一杯という状況であった。それでは子どもの表現意欲が引き出せないと考え、2学期以降は子どもと一緒に制作活動に参加し、①子どもがわかったことや考えて上手にできたことを迅速にキャッチして言葉をかける。②子どもが上手く表現できなくて困っている時は、その過程で子どもが感じている思いに寄り添い、それを引き出したり、代弁したりして、頭の中の整理ができるような言葉かけをする。③友達から刺激を受けることができるように、友達と一緒に作る楽しさも味わえるようにする。といった点に留意し、働きかけた。その結果、指導にゆとりが生まれ、子どもの発言や言葉にならない思いに気づけるようになり、教職員自身も活動を楽しめるようになった。

これらは、佐世保市のすみれ保育園における実践と共通点が多く、今後の「戸外アートコーナー」を中心とした表現活動の指導の方向性を考える上で、有効であると考えられる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①戸外アートコーナー	②制作活動	③表現意欲	④子ども
⑤保育指導方法	⑥年間保育計画	⑦幼保間連携	⑧教職員間連携

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

- ・山田祥世が、平成29年度幼稚園教職経験者研修会〔幼稚園10年研〕協議資料として一部を発表。3月末収録冊子が配布される予定。
- ・平成30年度の椋山女学園大学研究紀要もしくは教育学部紀要に投稿予定。

今後も、表現活動に積極的に取り組んでいる幼稚園や保育園を訪問し、情報収集と共に実践のヒントを得ることに努めたい。それらを、日々の保育実践に活用し、さらに活発で充実した「戸外アートコーナー」の設置・運営を目指したいと考える。